

会報順番番号IV-42

建設部門

所属 大日本土木（株） 立木 秀和

私とダムに関わり

はじめに

私は、今年で入社してちょうど30年が過ぎ節目の年になります。その30年の経歴の中で調整池（ため池）を含めダム関係の工事に携わってきたのが約2/3の20年程度になります。また、木曾三川が流れる当岐阜県では、ダムを見たり接したりする機会が子供の頃から多かったと思います。そこでダムに対する関わりや思いについて書きます。

念のために調整池（ため池）とダムとを区別して書いたのは、「河川法（河川法44条）によるとダムの定義として（河川の流水を貯留し、又は取水するため第二十六条第一項の許可を受けて設置するダムで、基礎地盤から堤頂までの高さが15メートル以上のものをいう。）とありまして 携わった調整池では、堤高が15m未満のものがあったからです。

小中学生時代

私は小学校へ入学後4年生まで揖斐川町で過ごしました。夏になると従兄弟たちと揖斐川で泳いだり、父親や叔父たちに涼を求めて上流へ連れて行ってもらいました。

私が住んでいた付近にはダムは全くなかったのですが、揖斐川を少し上流に行くと西平ダムがあり、ダム湖を中心とした揖斐峡があります。当時は、それなりに観光名所だったような気がします。その上流には久瀬ダムと横山ダムがあり、横山ダムは、堤体の天端が国道303号として供用されています。初めて横山ダムを見たときは低学年だったせいもあってか下流からの見た姿はとても雄大でした。また、天端から直下流を覗いたときには、あまりのすごさに恐怖心と感動が入り乱れ感激した思い出が今もよみがえります。

小学5年生から中学1年生までは、父親の仕事の関係で長野へ転校になりました。揖斐川町から長野までは、高速道路が当時は全くなかったため、帰省時には、国道21号および国道19号を約6時間父親と母親が運転を交代しながらひたすら走っていました。私は、後部座席で窓から見える景色を眺めていた記憶しか有りませんが、途中のドライブインで休憩し、ジュースを飲んだり食事をしたりするのがとても楽しみでした。

この経路は、木曾川沿いと千曲川と合流する犀川沿いを主に走行することになるため、ダム及びダム湖を数多く見ることになるのです。このように中学生までの私は、ダムに接する機会が多かったと思われます。それも全て完成したダムばかりで上流側には水面にきれいな景色を映し出すダム湖があり、私としては自然の一部としてダムが存在しているよう

〔岐阜県技術士会会報の情報連絡先〕

代表幹事 田島 暎久 〒509-0108 各務原市須衛町1-179-1 テクノプラザ5F
TEL: 0583-79-0580 FAX: 0583-85-4316 Email: gcea9901@ybb.ne.jp

に思えました。そんな中で横山ダムを初めて見た時の感動以上に感動したダムが2つあります。それは、家族旅行の途中で見た御母衣ダムと黒部ダムです。御母衣ダムでは、ダム湖沿いの国道を走っても走っても堤体にたどり着かないダム湖の長さと一緒に生まれて初めて見るロックフィルダムだったのですが、あまりに無造作な積み方に、よく水が漏れないな一と感心しました。黒部ダムでは、なんと言ってもあの迫力です。それによくこんな所に造ったものだと感心しました。

社会人時代

いきなり社会人に飛びますが、中学2年生以降は、やはり父親の仕事の関係で名古屋市内に転校になり、ダムに接する機会は、激減しました。

さて社会人になった私は、最初の5年ほどは主に鉄道の工事（民間工事）に携わっていました。そんなある日、上司から今後についての希望や要望等のヒアリングがありました。そこで私は、公共工事に携わりたいと希望を伝えました。実のところ鉄道の工事（民間工事）は、発注者が関西の民間鉄道会社であったため、このままでは大阪支店から出ることが出来ない！東海地区への転勤するためには、公共工事も経験しないとダメだと浅はかな考えもありました。それとは別にどこかのCMにもあったと思いますが、同じ物造りであれば地図に残る（載る）仕事に携わりたいとも思っていました。ヒアリングから数日後、上司より「準備工事用から始まるダム現場があるが、行く気はあるか？」と問い合わせがありました。もちろん答えはイエスで、ここから社会人としてダムに関わることになりました。それも今度は、造る方です。正直わくわくしていました。

初めて赴任したダムは、滋賀県の南西部に位置するロックフィルダムです。施工会社は、3社JVで我が社は2番目でサブでした。この時のスポンサー会社の方達は、ダム工事の経験が豊富な方が多かったのに対し、全くど素人の私は専門的なことが全くちんぷんかんぷんでした。しかし、スポンサー会社の方達はそんな私に対し、暖かく指導をいただきダムのイロハから学ばせていただきました。（ダムの完成までにメイン工種をほとんど経験させていただきました）。

このダム工事で印象に残っていることは、見る物聞く物全てが新鮮だったのですが、ダム屋さん（技術屋）の人の良さと会社等の壁を越えた結束力です。これについてはその後のどのダム現場に行っても感じました。その反面、残念ながら私が携わったダム以外の現場では、たまたまかもしれませんが感じられませんでした。

現場では、大型重機や重ダンプがすぐそばで稼働していたことと、発破を初めて経験できたことです。今でこそ数が増えましたが当時では数台しかないという5m³積級バックホウが稼働していました。今でも現場見学会等で一般の方や子供に受けるのは大型重機械です。当時の私はごく普通の一般人若しくは子供と一緒にいたのだと思います。発破では

〔岐阜県技術士会会報の情報連絡先〕

代表幹事 田島 暎久 〒509-0108 各務原市須衛町1-179-1 テクノプラザ5F
TEL: 0583-79-0580 FAX: 0583-85-4316 Email: gcea9901@ybb.ne.jp

火薬の取扱責任者の一員であったため、火薬に触れる機会が多く、生まれて初めて手にする火薬は好奇心と恐怖心で複雑な気持ちでした。それ以外では、定礎式です。ダム工事においては一大行事で、昔ながらの伝統や儀式を受け継いでおり、華やかでもあり厳かな気分になりました。ただし、近年では縮小傾向にあるようです。

最後に何と言っても一番感動したのは、自分が携わったダムが完成し、湛水を開始する時と試験湛水で満水を迎えた時でした。満水になったダムは、子供の時に見たダムと同じで雄大でした。余談ですが、ダムは水を貯めると中央付近ではある程度下流側に動く（膨らむ）ですよ！改めて水の力には感心しました。

この後私は、ロックフィルダム、コンクリートダム、調整池（提高15m未満および15m以上のアースダム）を各1個ずつ携わりました。コンクリートダムは、築堤を初めてすぐに転勤になりましたが、その他では築堤完成あるいは湛水まで携わることができ、初めてのダム現場同様最後の感動を味わうことができました。

おわりに

近年では、自然破壊や無駄な公共工事の代表のようにダムがあげられています。私は決してダム建設推進者ではありません。かといって不要論者でもありません。実際私が携わってきたダムの中には、地域住民の大半が待ち望んでいた（賛成）ダムもありましたので・・・。全てのダムが無駄ではないと思います。確かにダム築造は自然破壊もゼロではありませんし、高額な費用がかかります。その割に一般の方に効果が理解しにくいのがダムです。橋やトンネル、高速道路や鉄道ですと一般の方が実際に利用するし、近くなるとか早くなるとか便利さが実感できます。ところがダムは、一般の方が直接利用することはなく、渇水や洪水にならないと実感できないものです。ましてや洪水時に関して言えば、貯留しながら洪水のピークをカットし、安全な流量で放流しているのですが、一部の一般の方の意見では「ダムがあっても濁流がすごい勢いで流れてくる全然洪水に役立っていない」とのことです。確かにあの濁流を見ていると大丈夫かなと思える時があります。

私にとってのダムとは子供の頃から自然の中に存在する大きな構造物の1つでしかなかったのですが、いざ携わってみると先人達の知恵や努力がいっぱい詰まった物であり、技術の発展に大きく貢献した物の1つだと思えます。実際ダム工事に携わったことにより、技術士やダム総括管理技術者の資格を取得する事ができました。私を育ててくれたのも先輩達でありダムだったと思っています。

今では、グーグルアースを利用して自分が携わったダムを見に行ったり、ダム便覧（日本ダム協会 HP）でいろんなダムを見たりしています。今後においては、機会があれば今一度ダム工事に携わってみたいとも思いますし、時間に余裕ができれば、いろんなダムを訪れてみたいと思います。

【岐阜県技術士会会報の情報連絡先】

代表幹事 田島 暎久 〒509-0108 各務原市須衛町1-179-1 テクノプラザ5F
TEL: 0583-79-0580 FAX: 0583-85-4316 Email: gcea9901@ybb.ne.jp